

「任務完了いたしました。
これから帰ります。」

君は…ゴブリンの子…
それは下品な行いでしよう…

モッ

モミッ

ピタ

「かわいそうだけど、
やっぱり倒さないかね。」

油断しちゃった…
子供でも…こいつは魔物だ…
だが、私はまだ…

「こら！ 聖槍を取るんじゃない！
この低俗な生き物が！」





これはヤバイ…

「はいはい、私は負けを認めます…
もうやめてくれる？」

「君はこれ以上進めば…
きっと後悔することになりますよ…」

「ふん…これは…まさか…
私を奴隷にしようと
しているんですか？」

「それはうまいかない
でしょう？
私はゴブリンの豚
にはなりません…」

サッ

ビッキッ

うっ…

全然こっちの
話聞いてない…

「こんな恥ずかしいポーズで…私を鎖で縛るなんて…馬鹿げた考えです…」

「何人の女にこれをしたんですか？」

ムニッ
スッ…

「私は王ですよ…
下等生物め…
肉便器にしてなんのか？」

「君がどれだけ愚かかが
分かりました…」

「下品なゴブリングキ
ですからね…」

モニッ

「けど、まさか子供の
ゴブリンに負けるなんて
あるわけないでしょね…」

「分かりますか？
鎖を外せば命くらい
は助けてあげる…
さっさとこれを外して、
私の武器を返してよ…」

「所詮ゴブリンですよねW」

トッ

ぐんぐん♡



ゴブリンの
ちゃんぽがー

オホー

アッ

パン

パン

アッ

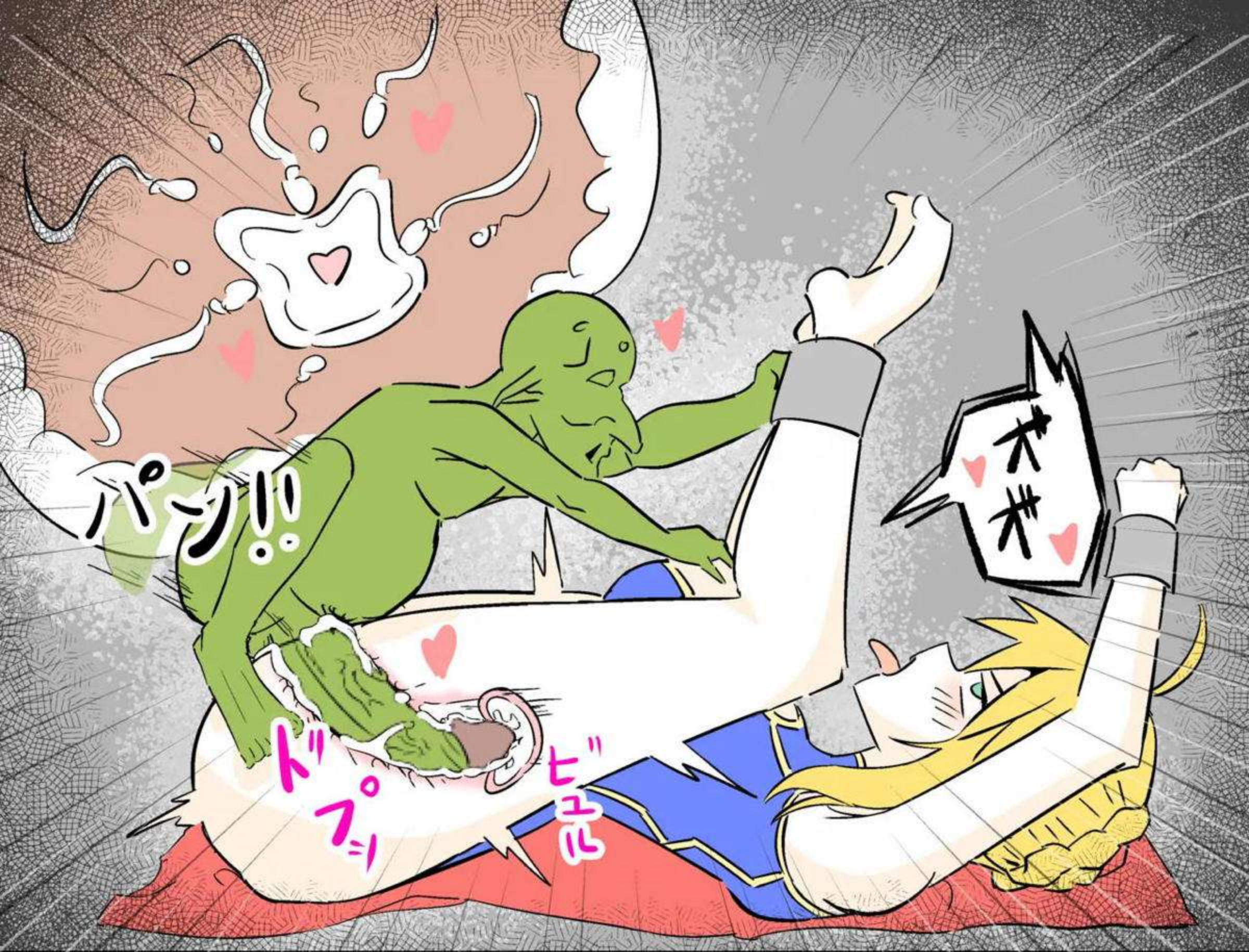
うう

パン

パン

アッ

アッ



チュポッ♡

「もう、私に意地悪
しないでください♡」

チュポッ♡

チュポッ♡

「あなたの豚じゃない
と言ったのに♡
なぜ私より優れているかの
ように振る舞うんですか？」

「あなたは強いかもしれないし♡
大きなチンポを持っているかも♡
まだ…私のマスターじゃないですよ♡」

ジュルル♡

ゴク

グポッ♡

チュポッ♡

ゴク

「王がゴブリンと一緒に住むなんて、
無理に決まってるじゃないですか？」

「何を言ってるのか知らないの、
全然分かりませー」

ハッ
WEAK!!

